

右文尚武の心意気を見せよ

今年の春はずっと気温の低い日が続いていて、5月の連休期間も肌寒く、桜の開花が例年よりも随分と遅くなった。今週になって、ようやく気温も例年並みとなったようで、校長室の窓から爽やかな初夏の空気が流れ込んでくるようになった。

4月下旬に運動会があり、連休が明けて中央支部総体、今週の火曜日まで1学期中間試験が行われ、来週からはいよいよ全県総体だ。陸上や柔道、サッカーは先行実施で、既に競技が始まっているところもある。

壮行会で話したが、本高の部活動の背骨となるのは、右文尚武の精神である。来る日も来る日も、部活動に打ち込み、悩みながら勉強にむかってきた健気なる勇士達に贈った文を載せる。諸君の健闘を期待する。

右文尚武の心意気を見せよ。

本高に学び、本高の運動部で鍛えし者たちよ。その発条のようにしなやかな肉体と、金剛石の如き堅固な覚悟をもって、対戦相手を圧倒することだ。

諸君を支えるのは、肉体と精神を鍛え上げた練習と、本高の歴史を貫く右文尚武の神髄である。

部活動に励み、練習で疲労困憊しながらもなお鉛筆を握る。制約のある時間の中でこじ開けるように学習時間を確保してきた。本高で部活を頑張ろうと決意したその瞬間から、諸君は右文尚武の精神を受け継いで、多くの先輩達の苦闘の歴史に連なったのだ。



右文尚武の精神こそが、本高の部活動を鍛え、本高と他校とを分かちつものだ。

右文尚武の精神こそが、諸君の肉体と精神を鍛え、本高における真性のアスリートを作り上げる。

鍛え上げられたその肉体と精神には どのような状況も乗り越えていく圧倒的な突破力が宿る。この強烈なる矜持をもって、猛然と競技に挑むことだ。

あるアスリートは言った。情熱は足りているか。
 できなかつたら、自分にもっとやれたんじゃないかと問え。
 うまくいかないときほど前向きになれ。大事なのは自分が成長することだから。

このことは、一回のゲームにおいて凝縮されてあらわれる。

苦しいときには自問し、自らに語りかけることだ。

情熱は足りているか。今こそ、自分の限界を打ち破るときだ、と。

諸君には右文尚武の精神が流れ込んでいる。それは110年の歴史の精髓である。

今日まで けなげに努力を積み重ねてきた、ここにいる一人一人の運動部員達を、本高の右文尚武の神が守らぬはずがない。さあ、踊り出でよ、本高のアスリートたち。グラウンドで、競技場でコートで、道場で。思い切り躍動し、右文尚武の心意気を見せよ。